

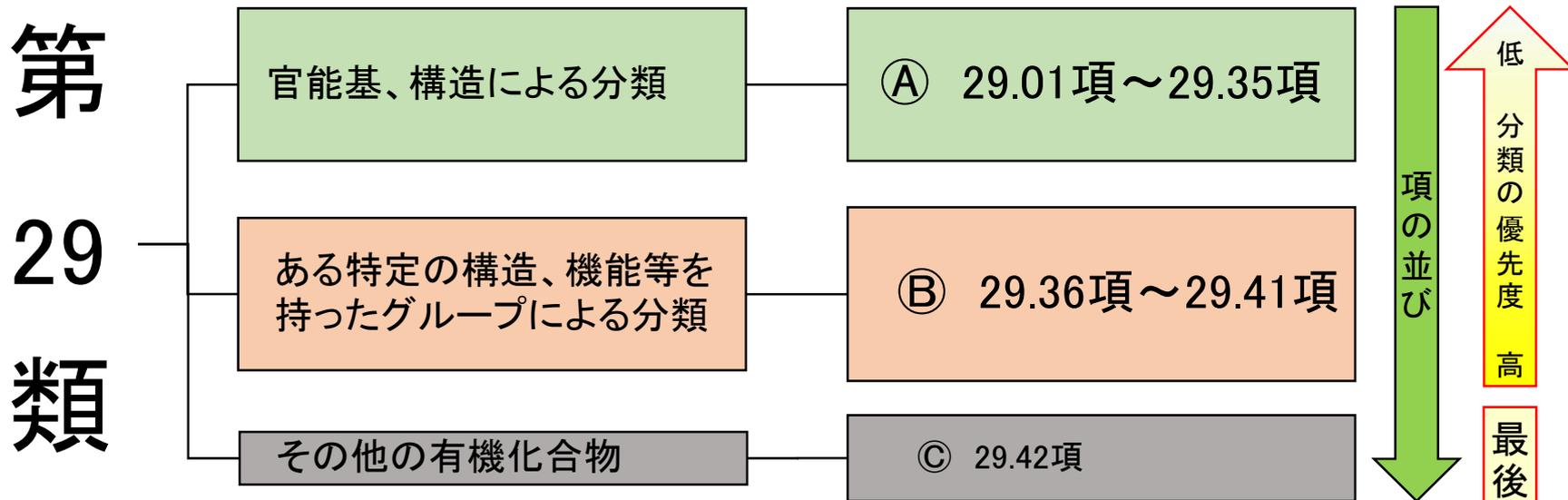
関税率表第29類の概要

令和2年12月 関税局品目分類係
分類センター

▶ 「本資料について」

- ▶ 本資料は、関税率表第29類の有機化学品について分類の考え方と基本的な情報をコンパクトに盛り込み、通関における品目分類の一助となるよう、同表及び同表解説の規定に基づいて基本的事項を整理したものです。
- ▶ 本資料に掲載されている化合物の名称等は、関税率表及び関税率表解説の文言を用いております。
- ▶ 内容について、ご不明な点がございましたら[最寄りの税関の関税鑑査官まで](#)お問い合わせいただきますようお願いいたします。

第29類の構成



類注3 この類の二以上の項に属するとみられる物品は、これらの項のうち数字上の配列において最後となる項に属する。

※ 項のグループ①～③の関係において、優先順位は②>①>③となる

構造式の表記方法について

化合物名	分子式	構造式1	構造式2
ペンタン	C_5H_{12}		
ペンテン	C_5H_{10}		
シクロペンタン	C_5H_{10}		
ベンゼン	C_6H_6		
ブタノール	$C_4H_{10}O$		 示性式 C_4H_9OH
ジメチルスルフィド	C_2H_6S		
ピリジン	C_5H_5N		

- 結合を線で表し、Cを省略することができる
(角と末端にCが省略)
- Hは通常省略
- 二重結合、三重結合は二重線、三重線

不飽和
二重結合

飽和／不飽和環式
:炭素のみから成る環
:脂環式(⇔芳香族炭化水素)

複素環式
:炭素と炭素以外の元素で環を形成

分子式 分子を構成する原子の種類とその数を元素記号で表した式

構造式 分子を構成する原子の結合状態を価標(結合線)を用いて表した式

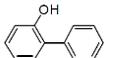
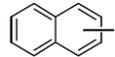
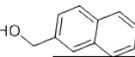
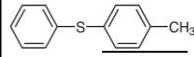
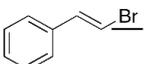
示性式 構造式における結合線を省略したもの

(例ブタノール $\Rightarrow C_4H_9OH$ 、酢酸 $\Rightarrow CH_3COOH$)

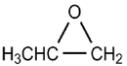
代表的な官能基等①

官能基とは、有機化合物の化学的性質を特徴づける原子団である。

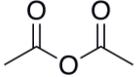
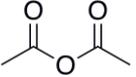
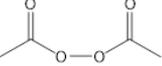
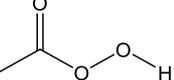
R、R'及びR''は炭化水素等から成る有機の官能基を示す(例えば、CH₃-、C₂H₅-、等)

官能基等	官能基等の説明	有機化合物の例
メチル基 CH ₃ -	アルキル基(脂肪族飽和炭化水素から水素原子1個を除いた原子団)の一種	CH ₃ -OH メチルアルコール
エチル基 C ₂ H ₅ -		C ₂ H ₅ -  エチルベンゼン
プロピル基 C ₃ H ₇ -		C ₃ H ₇ -O-CH ₃ メチルプロピルエーテル
ビニル基 CH ₂ =CH-		CH ₂ =CH-CH=CH ₂ ブタジエン
メチレン基 -CH ₂ -		Cl-CH ₂ -Cl 塩化メチレン
フェニル基 		 オルトフェニルフェノール
ナフチル基 	アリール基(芳香族炭化水素から水素原子1個を除いた原子団)の一種	HO-  2-ナフチルメタノール
トリル基 CH ₃ - 		 フェニル-パラ-トリルスルフィド
ハロゲン -F -Cl -Br -I	周期表第17族の元素である、ふっ素(F)、塩素(Cl)、臭素(Br)、よう素(I)の4元素の総称を「ハロゲン」という	CH ₃ -Cl クロロホルム  ブロモスチレン
スルホン基 -SO ₃ H	スルホン酸	C ₂ H ₅ -SO ₃ H エチルスルホン酸
ニトロ基 -NO ₂		CH ₃ -NO ₂ ニトロメタン
ニトロソ基 -NO		 ニトロソベンゼン

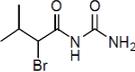
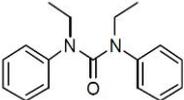
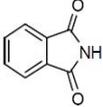
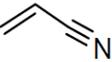
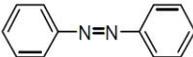
代表的な官能基②

官能基等	官能基等の説明	有機化合物の例
水酸基 -OH (ヒドロキシル基)	炭化水素の水素原子を水酸基で置換した化合物をアルコールという。フェノール以外のもの。	$\text{CH}_3\text{-OH}$ メチルアルコール
	フェノール(水酸基が直接ベンゼン環に結合したもの)	OH- 
エーテル結合 -O- (R-O-R')	2個の炭化水素基が酸素原子と結合した化合物	$\text{C}_2\text{H}_5\text{-O-C}_2\text{H}_5$ ジエチルエーテル
エポキシ基	エチレンオキシドを置換基としてみる時の呼称	
アルデヒド基 -CHO	アルデヒド(酸素と2重結合した炭素に水素が結合したもの)	H-CHO ホルムアルデヒド
カルボニル基 $>\text{C}=\text{O}$	ケトン(酸素と2重結合した炭素に炭化水素基が結合したもの)	$\text{CH}_3\text{-CO-CH}_3$ アセトン
カルボキシル基 -COOH	カルボン酸(酸素と2重結合した炭素に水酸基が結合したもの)	$\text{CH}_3\text{-COOH}$ 酢酸

代表的な官能基③

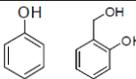
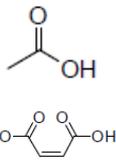
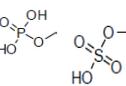
官能基等	官能基等の説明	有機化合物の例
アシル基 RCO-	カルボン酸のカルボキシル基のOHを除いた残りの原子団	$\text{CH}_3\text{CO}-\text{OH}$ 酢酸
酸無水物 	2つのカルボキシル基から水(H ₂ O)が取れ、結合したもの	 無水酢酸
酸ハロゲン化物	カルボン酸のカルボキシル基の水酸基がハロゲンに置き換わったもの	 塩化アセチル
酸過酸化化物	2つのアシル基の間に2つのOが入り結合したもの	 ジアセチルペルオキシド
過酸	カルボン酸のカルボキシル基の水酸基がOOHに置き換わったもの	 過酢酸
エステル結合 -COO-	カルボン酸のカルボキシル基のHが炭化水素基等に置き換わったもの	$\text{CH}_3-\text{COO}-\text{C}_2\text{H}_5$ 酢酸エチル

代表的な官能基④

第1アミン RNH_2		$\text{CH}_3\text{-NH}_2$ メチルアミン
第2アミン R-NH-R	アミン(アンモニアの水素原子の1個、2個又は3個をそれぞれ1個、2個又は3個のアルキル基又はアール基R(メチル、エチル、フェニル等)で置換して得られる)	$\text{CH}_3\text{-NH-CH}_3$ ジメチルアミン
第3アミン $\text{R-N} \begin{matrix} \text{R}'' \\ \text{R}' \end{matrix}$		 トリメチルアミン
第1アミド -CONH_2		 アセトアミド
第2アミド $(\text{-CO})\text{NH-R}$	アミノ基(-NH_2)が酸基と結合して -CO-NH-R といった形になった時の呼称	 ブロモイソバレリル尿素
第3アミド $(\text{-CO})\text{N} \begin{matrix} \text{R}'' \\ \text{R}' \end{matrix}$		 ジエチルジフェニル尿素
イミド RCO-NH-COR	アンモニアの水素2原子をアシル基で置換し、 -CO-NH-CO- となった形になった時の呼称	 フタル酸イミド
イミン $\text{R}_2\text{C=NH}$	アンモニアとアルキル基、アリル基が二重結合で結合し、 -C=NH といった形になった時の呼称	 グアニジン
ニトリル $\text{RC}\equiv\text{N}$	$\text{-C}\equiv\text{N}$ で表される基を有する有機化合物をニトリルと呼称する	 アクリロニトリル
アゾ化合物 $\text{R-N=N-R}'$	-N=N- で表される基を有する有機化合物をアゾ化合物と呼称する	 アゾベンゼン

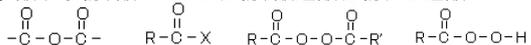
第29類の概要

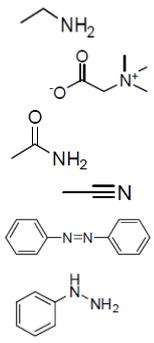
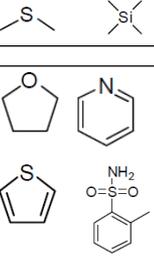
①構造(官能基)による分類

節	項	項の化合物	特徴
1	29.01	非環式炭化水素	
	29.02	環式炭化水素	
	29.03	炭化水素のハロゲン化誘導体	
	29.04	炭化水素のスルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体(ハロゲン化してあるかないかを問わない。)	
2	29.05	非環式アルコール並びにその※	
	29.06	環式アルコール並びにその※	
3	29.07	フェノール及びフェノールアルコール	
	29.08	フェノール又はフェノールアルコールの※	
4	29.09	エーテル、エーテルアルコール、エーテルフェノール、エーテルアルコールフェノール、アルコールペルオキシド、エーテルペルオキシド及びケトンペルオキシド並びにこれらの※	
	29.10	三員環のエポキシド、エポキシアルコール、エポキシフェノール及びエポキシエーテル並びにこれらの※	
	29.11	アセタール及びヘミアセタール(他の酸素官能基を有するか有しないかを問わない。)並びにこれらの※	
5	29.12	アルデヒド(他の酸素官能基を有するか有しないかを問わない。)、アルデヒドの環式重合体及びパラホルムアルデヒド	
	29.13	第29.12項の物品の※	
6	29.14	ケトン及びキノン(他の酸素官能基を有するか有しないかを問わない。)並びにこれらの※	
7	29.15	飽和非環式モノカルボン酸並びにその☆並びにこれらの※	
	29.16	不飽和非環式モノカルボン酸及び環式モノカルボン酸並びにこれらの☆並びにこれらの※	
	29.17	ポリカルボン酸並びにその☆並びにこれらの※	
	29.18	カルボン酸(他の酸素官能基を有するものに限る。)並びにその☆並びにこれらの※	
8	29.19	りん酸エステル及びその塩(ラクトホスフェートを含む。)並びにこれらの※	
	29.20	非金属のその他の無機酸のエステル(ハロゲン化水素酸エステルを除く。)及びその塩並びにこれらの※	

第2節～8節の「※」:ハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体(注:ハロゲン F, Cl, Br, I等 以下「X」として表記する)
(母体化合物の水素(H)をハロゲン(-X)、スルホン基(-SO₃H)、ニトロ基(-NO₂)又はニトロソ基(-NO)に置換したもの)

第7節の「☆」:酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸



節	項	項の化合物	特徴
9	29.21	アミン官能化合物	
	29.22	酸素官能のアミノ化合物	
	29.23	第四級アンモニウム塩、水酸化第四級アンモニウム及びレシチンその他のホスホアミノリピド	
	29.24	カルボキシアミド官能化合物及び炭酸のアミド官能化合物	
	29.25	カルボキシイミド官能化合物(サッカリン及びその塩を含む。)及びイミン官能化合物	
	29.26	ニトリル官能化合物	
	29.27	ジアゾ化合物、アゾ化合物及びアゾキシ化合物	
	29.28	ヒドラジン又はヒドロキシルアミンの有機誘導体	
	29.29	その他の窒素官能基を有する化合物	
10	29.30	有機硫黄化合物	
	29.31	その他のオルガノインオルガニック化合物	
	29.32	複素環式化合物(ヘテロ原子として酸素のみを有するものに限る。)	
	29.33	複素環式化合物(ヘテロ原子として窒素のみを有するものに限る。)	
	29.34	核酸及びその塩並びにその他の複素環式化合物	
29.35	スルホンアミド		

②ある特定の構造、機能等を持ったグループによる分類

11	29.36	プロビタミン及びビタミン(天然のもの及びこれと同一の構造を有する合成のものに限る。)並びにこれらの誘導体で主としてビタミンとして使用するもの並びにこれらの相互の混合物
	29.37	ホルモン、プロスタグランジン、トロンボキサン及びロイコトリエン(天然のもの及びこれと同一の構造を有する合成のものに限る。)並びにこれらの誘導体及び構造類似物
12	29.38	グリコシド(天然のもの及びこれと同一の構造を有する合成のものに限る。)及びその塩、エーテル、エステルその他の誘導体
	29.39	アルカロイド(天然のもの及びこれと同一の構造を有する合成のものに限る。)及びその塩、エーテル、エステルその他の誘導体
13	29.40	糖類(化学的に純粋なものに限るものとし、しょ糖、乳糖、麦芽糖、ぶどう糖及び果糖を除く。)並びに糖エーテル、糖アセタール、糖エステル、糖エーテルの塩、糖アセタールの塩及び糖エステルの塩(第29.37項から第29.39項までの物品を除く。)
	29.41	抗生物質

③他の項に該当しない化学的に単一の有機化合物

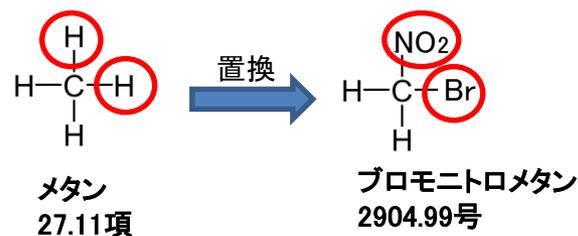
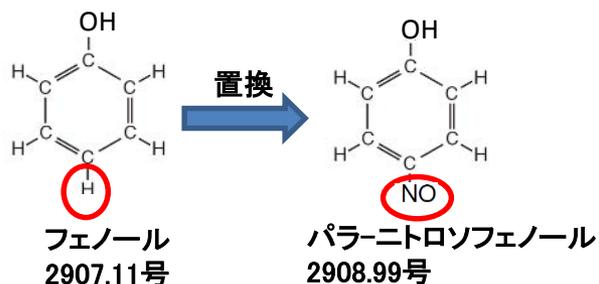
13	29.42	その他の有機化合物
----	-------	-----------

…化学的に単一の化合物ではないがこの類に含まれる物品を含む項

●誘導体とは

関税率表第29類注4には、ハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体について規定されている。これらは、母体化合物の1個以上の水素原子を1個以上のハロゲン、スルホン基(-SO₃H)、ニトロ基(-NO₂)及びニトロソ基(-NO)でそれぞれ置換したものである。(関税率表解説第29類総説(F)参照)

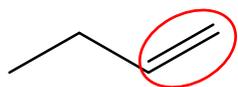
(例)



●異性体とは

分子式は同じであるが、原子の結合状態や立体配置が異なる物質

例①: 原子の結合状態が異なる物質

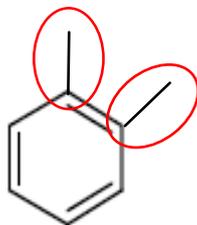


1-ブテン
分子式: C_4H_8

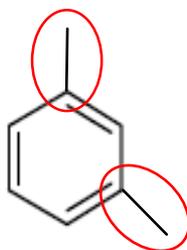


2-ブテン
分子式: C_4H_8

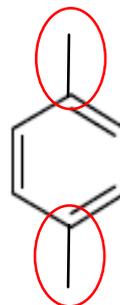
例②: 原子の置換基の位置が異なる物質



オルト-キシレン
分子式: C_8H_{10}



メタ-キシレン
分子式: C_8H_{10}



パラ-キシレン
分子式: C_8H_{10}

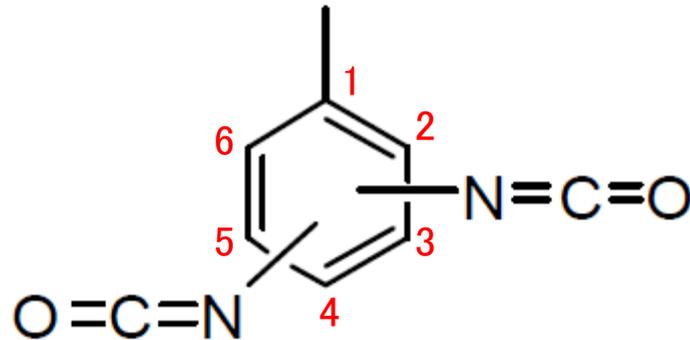
類注1(b)

同一の有機化合物の二以上の異性体の混合物

(例)

国内分類例規

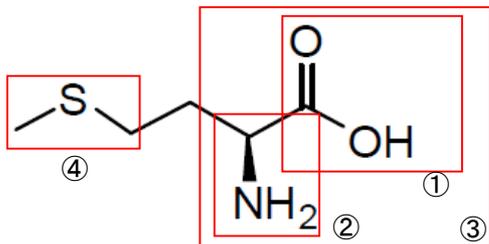
2929.10 1. トルエンジイソシアナート(トリレンジイソシアナート)(Toluene Diisocyanate (Toluene Diisocyanate))



イソシアナート基(-N=C=O)の位置が2、4のものど2、6のものとの混合物であっても、当該異性体が、自然状態で共存している場合又は同じ合成の過程で同時に得られる場合に限り、第29.29項に分類される。(関税率表解説第29類総説(A)参照)

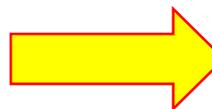
第29類注3による分類例

例1: メチオニン



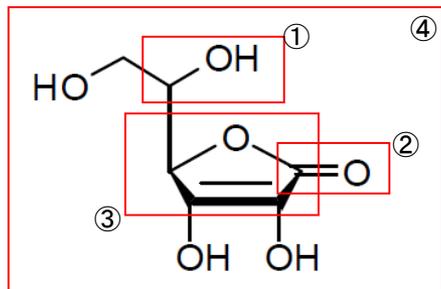
- ①カルボン酸 29. 14項
- ②アミン 29. 21項
- ③酸素官能の
アミノ化合物 29. 22項
- ④有機硫黄化合物 29. 30項

複数の項に
該当し得るが



最後となる項である
有機硫黄化合物として
29.30項に分類

例2: アスコルビン酸



- ①アルコール 29. 05項
- ②ケトン 29. 14項
- ③複素環 29. 32項
- ④ビタミン 29. 36項

複数の項に
該当し得るが

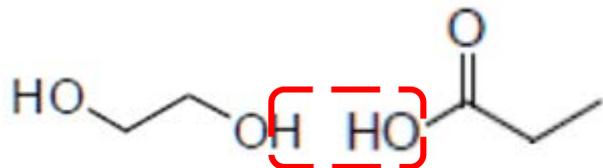


最後となる項である
ビタミンとして
29.36項に分類

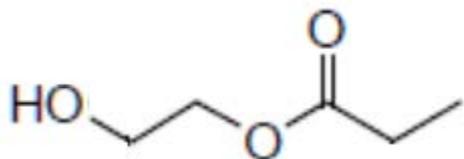
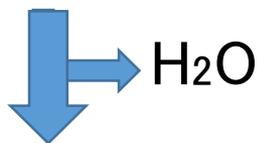
※第29類号注2: ただし、この類の号の決定においては、第29類注3の規定は適用しない

類注5(A)、(B)

(A) エステルについては、元の酸官能化合物とアルコールの所属する項で考え、後ろの項に所属する

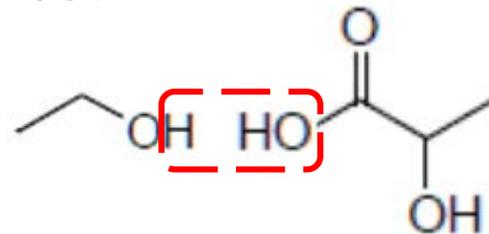


エチレングリコール
29.05項(2節) プロピオン酸
29.15項(7節)

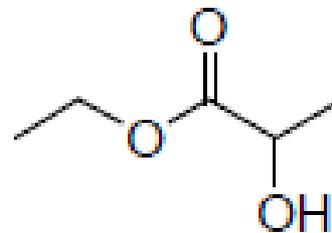
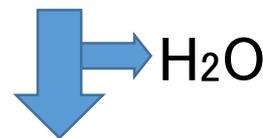


プロピオン酸2-ヒドロキシエチル
29.15項(プロピオン酸のエステル)
 $\text{CH}_2(\text{OH})\text{CH}_2 - \text{O} - (\text{CO})\text{CH}_2\text{CH}_3$
 $\text{C}_5\text{H}_{10}\text{O}_3$
2915.50号

(B) エタノールと酸官能化合物とのエステルの場合、酸官能化合物が属する項に属する

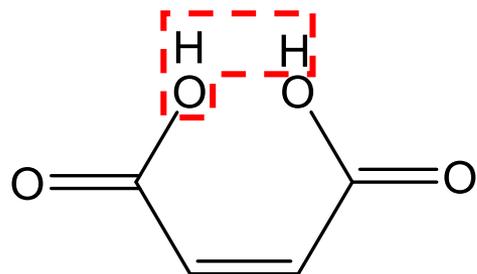


エチルアルコール
(エタノール)
(第22類) 乳酸
29.18項(7節)

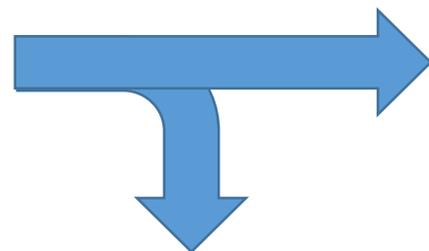


乳酸エチル
29.18項(乳酸のエステル)
 $\text{CH}_3\text{CH}_2 - \text{O} - (\text{CO})\text{CH}(\text{OH})\text{CH}_3$
 $\text{C}_5\text{H}_{10}\text{O}_3$
2918.11号

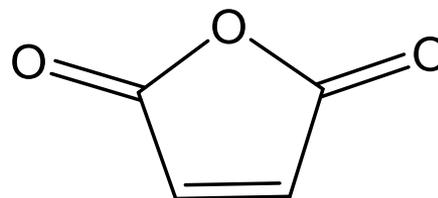
ポリカルボン酸の無水物 (29.32項除外規定(d))



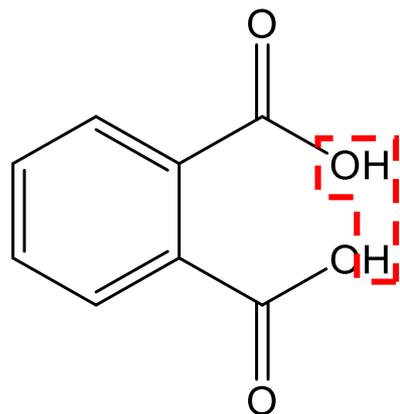
マレイン酸



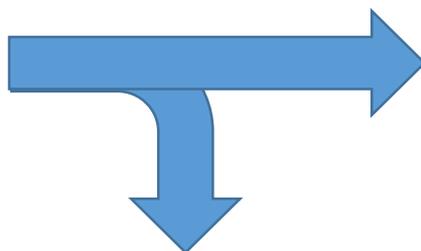
H₂O



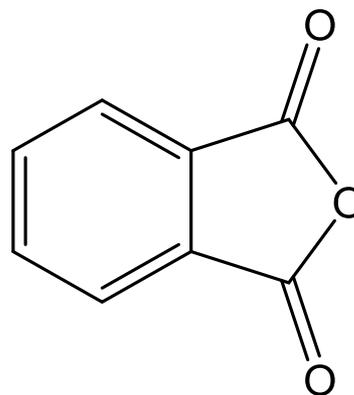
無水マレイン酸
(29.17項)



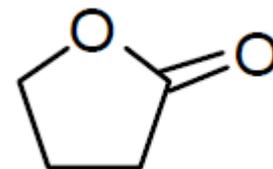
フタル酸



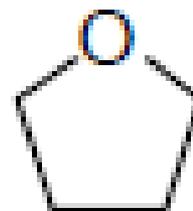
H₂O



無水フタル酸
(フタル酸の酸無水物)
(29.17項)



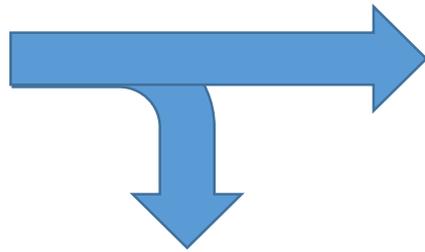
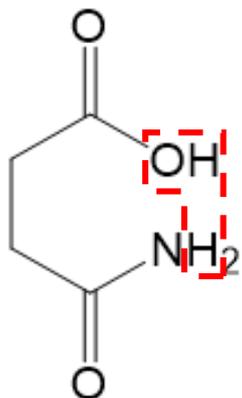
ブチロラクトン
(29.32項)



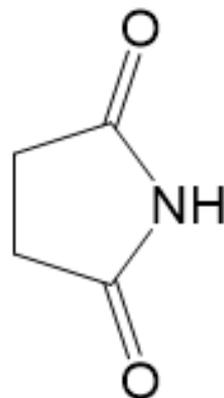
テトラヒドロフラン
(29.32項)

複素環式化合物

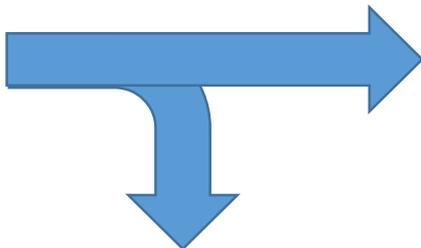
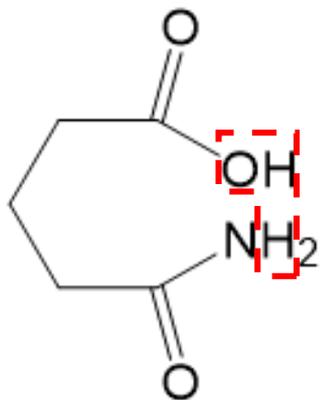
多塩基酸のイミド (29.33項除外規定)



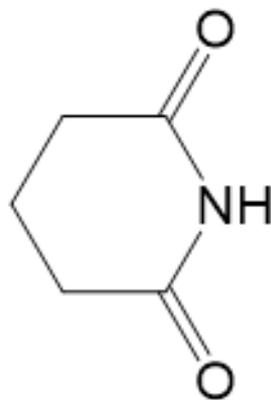
H₂O



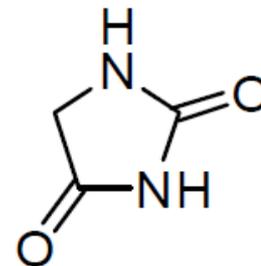
こはく酸イミド
(29.25項)



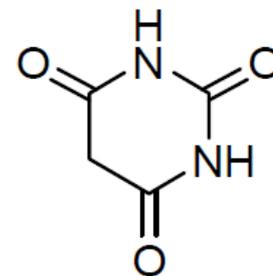
H₂O



グルタル酸イミド
(29.25項)



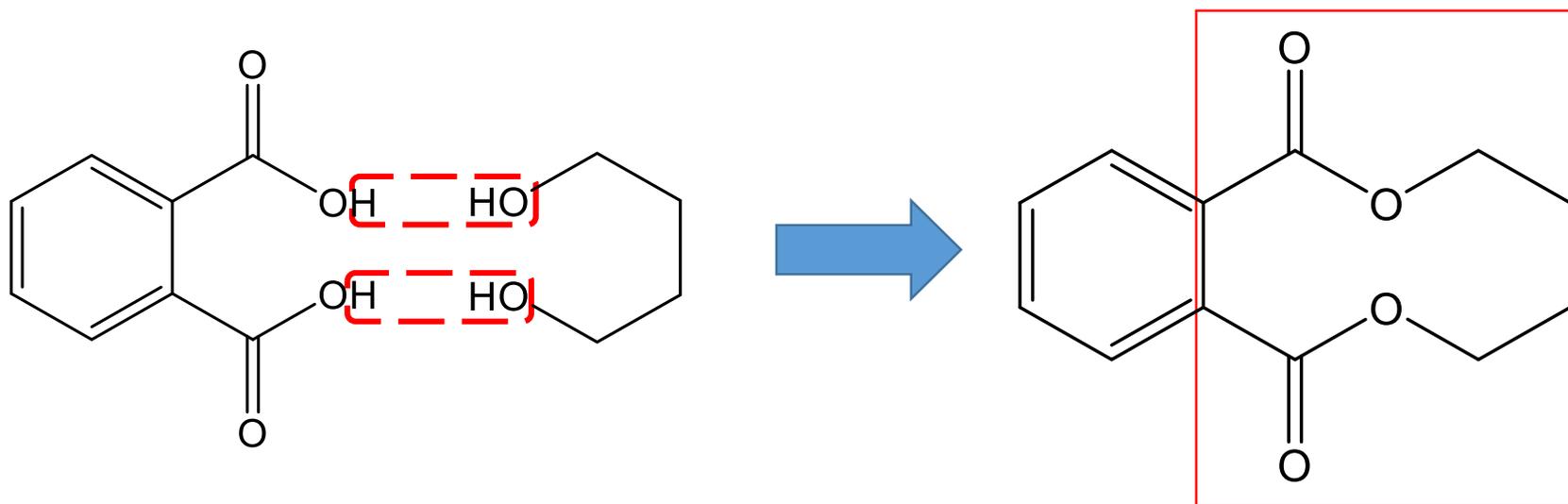
ヒダントイン
(29.33項)



マロニル尿素
(バルビツール酸)
(29.33項)

複素環式化合物

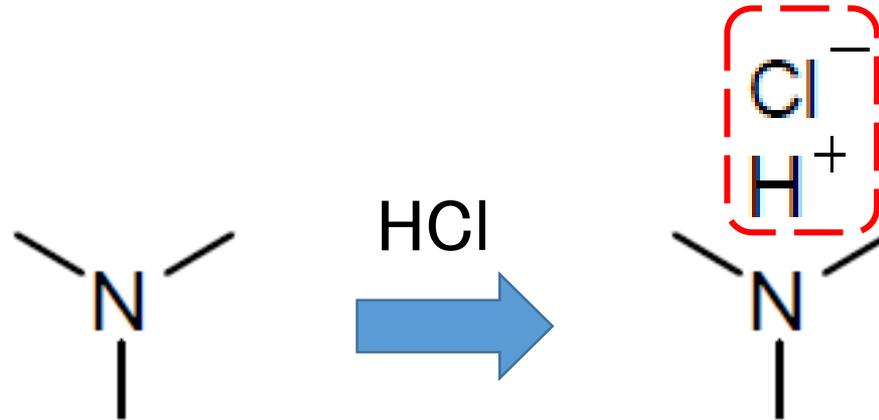
ポリカルボン酸と多価アルコールのエステル(29.32項除外規定(d))



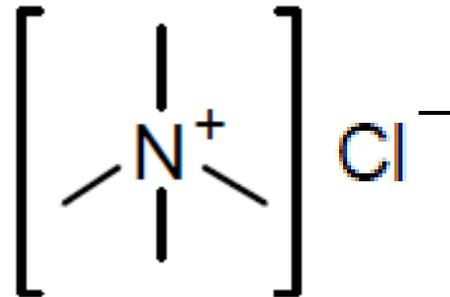
○(酸素)を有する複素環式化合物に見えるが、ポリカルボン酸と多価アルコールのエステルとなり環状になったものであるため、第29.17項に分類される

アミンの塩(29.21項)及び第四級アンモニウム塩(29.23項)

- アミンの塩



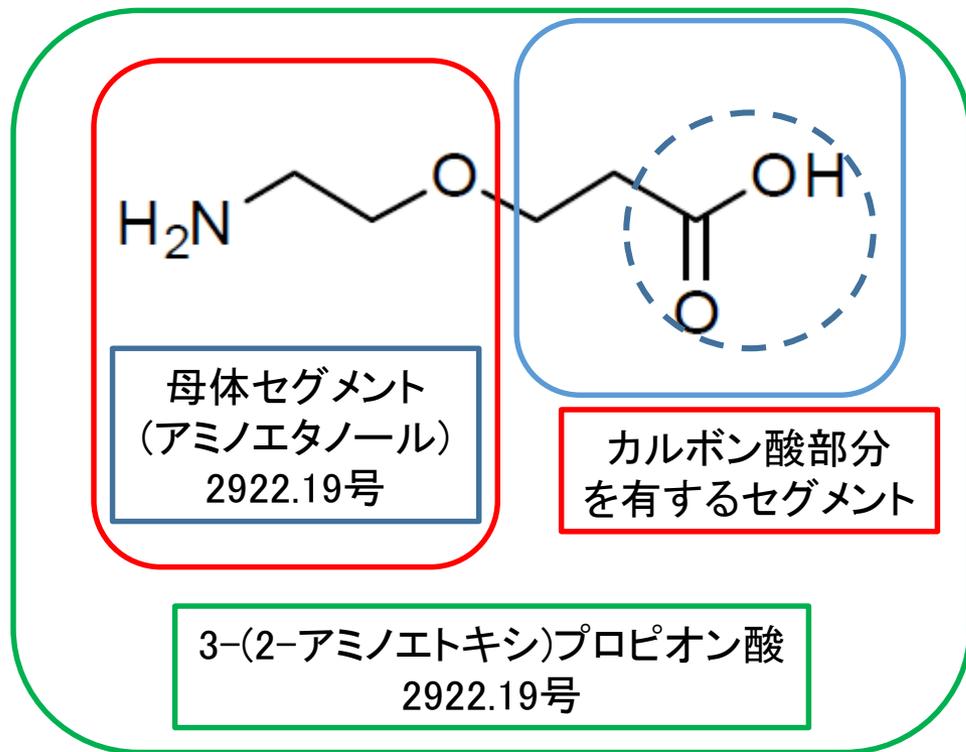
- 第四級アンモニウム塩



アミンの塩は第一～第三アミンに対して、酸が配位結合したもの
第四級アンモニウム塩はテトラアルキルアンモニウムに塩基がイオン結合したもの

酸素官能のアミノ化合物(解説29.22項 号の解説 2922.11から2922.50)

アミン官能基を含むセグメントを「母体セグメント」といい、母体セグメントの有する酸素官能基により分類を決定するものとし、他のセグメントの酸素官能基は考慮しない

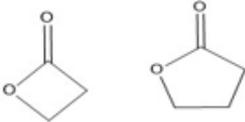
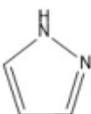
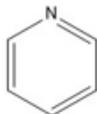
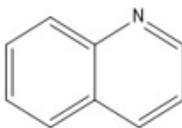
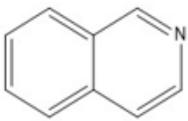
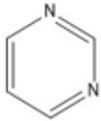
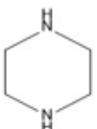
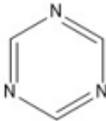
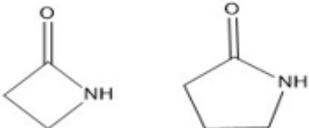
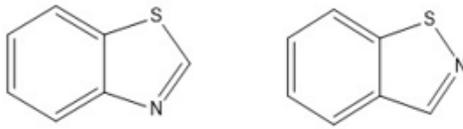


母体セグメントはアミノアルコールのエーテル(2922.19号)であり、これにより分類を決定するものとし、本品は2922.19号に分類される

他のセグメントのカルボン酸は分類に影響せず、その他の酸素官能基を有するアミノ酸として2922.50号に分類されない

複素環一覧表

(第29類の項又は号に規定のある複素環)

29.32	2932.1 非縮合フラン環 	2932.2 ラクトン 			
29.33	2933.1 非縮合ピラゾール環 	2933.2 非縮合イミダゾール環 	2933.3 非縮合ピリジン環 	2933.4 キノリン 	イソキノリン 
	2933.5 ピリミジン 	ピペラジン 	2933.6 非縮合トリアジン 	2933.7 ラクタム 	
29.34	2934.1 非縮合チアゾール環 	2934.2 ベンゾチアゾール環 		2934.3 フェノチアジン環 